

200344460-2
U.S.

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 Date of Application: 2003年 3月26日

出願番号 Application Number: 特願2003-085197

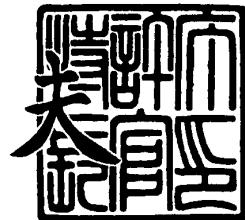
[ST. 10/C]: [JP2003-085197]

出願人 Applicant(s): ブラザー工業株式会社

2003年12月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康



57R010

出証番号 出証特2003-3101858

【書類名】 特許願
【整理番号】 2002107900
【提出日】 平成15年 3月26日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 B41J 2/01
B41J 11/06

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 プラザー工業
株式会社内

【氏名】 開 信郎

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 プラザー工業
株式会社内

【氏名】 杉浦 俊夫

【特許出願人】

【識別番号】 000005267

【氏名又は名称】 プラザー工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100109195

【弁理士】

【氏名又は名称】 武藤 勝典

【電話番号】 052-824-2463

【選任した代理人】

【識別番号】 100110755

【弁理士】

【氏名又は名称】 田辺 政一

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 109576

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0018483

【包括委任状番号】 0100658

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像形成装置及び用紙受け台

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 吸引により平坦な用紙受け台の表面に沿わせた用紙に、前記用紙受け台とは反対側から画像を形成しつつ、前記用紙を所定の搬送方向へ搬送する画像形成装置において、

前記搬送方向に直交する所定の回転軸周りに回転可能で、前記用紙受け台の表面から突出して設けた転動体を複数備え、複数の前記転動体のうち少なくとも一部が互いに別々に回転可能であることを特徴とする画像形成装置。

【請求項 2】 複数の前記転動体は、前記搬送方向に沿って並設されていることを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 3】 複数の前記転動体は、前記搬送方向に沿って並設され、複数の列を成すことを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 4】 前記用紙受け台の表面で前記転動体の列同士の間の少なくとも 1 つに、大気を吸引する吸引口を設けたことを特徴とする請求項 3 に記載の画像形成装置。

【請求項 5】 前記用紙受け台の表面で複数の前記転動体の少なくとも 1 つの近傍に、大気を吸引する吸引口を設けたことを特徴とする請求項 1 ~ 請求項 4 のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項 6】 前記用紙受け台の表面で前記転動体に対して前記搬送方向に直交する方向の外側近傍に、大気を吸引する吸引口を設けたことを特徴とする請求項 1 ~ 請求項 5 のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項 7】 複数の前記転動体の少なくとも一部が、前記搬送方向に平行な所定の直線に対して線対称に配設されていることを特徴とする請求項 1 ~ 請求項 6 のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項 8】 線対称に配設されて対を成す前記転動体同士の幅は、該転動体が前記搬送方向に直交する方向の外側に位置するほど、広がる割合が小さくなることを特徴とする請求項 7 に記載の画像形成装置。

【請求項 9】 複数の前記転動体は、前記搬送方向に直交する方向に沿って等

ピッチで並設されていることを特徴とする請求項1～請求項7のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項10】 前記転動体の半径が4.3mm以上であるとともに、前記転動体が前記用紙受け台の表面から突出する突出量が0.4mm以下であることを特徴とする請求項1～請求項9のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項11】 前記用紙受け台の表面に沿わせた用紙と該用紙に画像を形成するヘッドとの距離が1mm以下であるとともに、前記転動体が前記用紙受け台の表面から突出する突出量が2mm以下であることを特徴とする請求項1～請求項9のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項12】 前記転動体により用紙に加わる前記搬送方向に対する負荷が、0.098N以下であることを特徴とする請求項1～請求項11のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項13】 複数の前記転動体は、前記搬送方向に沿って等ピッチで並設されていることを特徴とする請求項1～請求項12のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項14】 少なくとも1つの前記転動体について、前記転動体の軸受けに対する画像形成剤の付着或いは接近を防止する防止手段を備えたことを特徴とする請求項1～請求項13のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項15】 前記防止手段は、前記転動体の回転半径方向に突出する突出部により構成されていることを特徴とする請求項14に記載の画像形成装置。

【請求項16】 前記防止手段は、前記転動体の回転半径方向に突出する第1の突出部と、該第1の突出部と平行に突出する第2の突出部とにより構成されていることを特徴とする請求項14に記載の画像形成装置。

【請求項17】 前記転動体は、少なくとも、前記突出部を一体成形されていることを特徴とする請求項15又は請求項16に記載の画像形成装置。

【請求項18】 前記防止手段は、少なくとも、前記用紙受け台に一体成形された突出部により構成されていることを特徴とする請求項14に記載の画像形成装置。

【請求項19】 インクを噴射することによる画像形成手段を備えたことを特

徴とする請求項1～請求項18のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項20】 吸引により表面に沿わせた用紙に反対側から画像が形成されつつ、前記用紙が所定の搬送方向へ搬送される用紙受け台において、前記搬送方向に直交する所定の回転軸周りに回転可能で、表面から突出して設けた転動体を、複数備えたことを特徴とする用紙受け台。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、用紙受け台に沿わせた用紙に画像を形成しつつ、この用紙を搬送する画像形成装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来より、このような画像形成装置の一例として、インクジェット記録装置が知られている。インクジェット記録装置は、記録ヘッドからインクを用紙に噴射させて、用紙に記録を行うものであるが、用紙と記録ヘッドとの距離を一定に保つために、用紙を介して記録ヘッドの反対側の位置に、いわゆるプラテンが設けられている。プラテンの表面には、大気を吸引する複数の吸引口が設けられており、ここから強制的に大気を吸引し、用紙をプラテンに吸引密着させる。これにより、用紙と記録ヘッドとの距離が一定に保たれ、安定した画品質の記録を行うことができる。

【0003】

ところが、用紙がカール状に変形している場合や、記録ヘッドから噴射されるインク量が多く、その液滴の乾燥により用紙が伸縮する場合には、吸引口での吸引力を大きく設定する必要がある。この結果、用紙がプラテンに吸引密着される際、用紙の吸引口に対向する部分が吸引口内に吸い込まれてしまい、用紙が凹凸状に変形し、その記録領域にインクの濃度ムラ、滲みや流れ等の、悪影響が及ぼされるという不具合があった。その他、用紙がプラテンに過度に吸い付けられて搬送し難くなることがあった。

【0004】

そこで、このような不具合点を解消するため、用紙の厚さに応じて吸引口の直径或いは幅を制限した構成のものが開示されている（例えば、特許文献1参照。）。具体的には、プラテンに複数の空気吸引口を備え、その直径或いは幅を r m、用紙の厚さを t mm とするとき、 $10t > r$ の関係を有する構成としている。これにより、用紙の搬送が困難でなくなるとともに、用紙がプラテンに一様に吸引密着され、用紙が凹凸状に変形せず、記録ヘッドと用紙との距離を一定に保持して、高品位の記録画像を得ることができるとしている。

【0005】

【特許文献1】

特開平2-286340号公報

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述したような従来の構成においては、用紙が平坦な面に接触しており、それらの間で摩擦が生じているので、適切な用紙の搬送が妨げられる恐れがあった。

【0007】

本発明は、このような問題点に鑑み、簡単な構成で、用紙のスムーズで安定した搬送が可能であり、しかも高品位の画像を得ることができる画像形成装置、及びその用紙受け台を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、請求項1に記載の発明は、吸引により平坦な用紙受け台の表面に沿わせた用紙に、前記用紙受け台とは反対側から画像を形成しつつ、前記用紙を所定の搬送方向へ搬送する画像形成装置において、前記搬送方向に直交する所定の回転軸周りに回転可能で、前記用紙受け台の表面から突出して設けた転動体を複数備え、複数の前記転動体のうち少なくとも一部が互いに別々に回転可能である。

【0009】

また、請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の発明の手段を備え、その作

用を奏し、複数の前記転動体は、前記搬送方向に沿って並設されており、少なくとも一部が互いに別々に回転可能である。

【0010】

また、請求項3に記載の発明は、請求項1に記載の発明の手段を備え、その作用を奏し、複数の前記転動体は、前記搬送方向に沿って並設され、複数の列を成し、少なくとも一部が互いに別々に回転可能である。

【0011】

また、請求項4に記載の発明は、請求項3に記載の発明の手段を備え、その作用を奏し、前記用紙受け台の表面で前記転動体の列同士の間の少なくとも1つに、大気を吸引する吸引口を設け、この吸引口により、用紙が大気とともに吸引されつつ、転動体に接触しながらこの上を移動する。

【0012】

また、請求項5に記載の発明は、請求項1～請求項4のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、前記用紙受け台の表面で複数の前記転動体の少なくとも1つの近傍に、大気を吸引する吸引口を設け、この吸引口により、用紙が大気とともに吸引されつつ、転動体に接触しながらこの上を移動する。

【0013】

また、請求項6に記載の発明は、請求項1～請求項5のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、前記用紙受け台の表面で前記転動体に対して前記搬送方向に直交する方向の外側近傍に、大気を吸引する吸引口を設け、この吸引口により、用紙が大気とともに吸引されつつ、転動体に接触しながらこの上を移動する。

【0014】

また、請求項7に記載の発明は、請求項1～請求項6のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、複数の前記転動体の少なくとも一部が、前記搬送方向に平行な所定の直線に対して線対称に配設され、いわゆるセンターレジの用紙配置にて用紙が搬送される。

【0015】

また、請求項8に記載の発明は、請求項7に記載の発明の手段を備え、その作用を奏し、線対称に配設されて対を成す前記転動体同士の幅は、該転動体が前記搬送方向に直交する方向の外側に位置するほど、広がる割合が小さくなる構成で、センターレジの用紙配置にて用紙が搬送される。

【0016】

また、請求項9に記載の発明は、請求項1～請求項7のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、複数の前記転動体は、前記搬送方向に直交する方向に沿って等ピッチで並設されており、センターレジの用紙配置にて用紙が搬送される。

【0017】

また、請求項10に記載の発明は、請求項1～請求項9のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、前記転動体の半径が4.3mm以上であるとともに、前記転動体が前記用紙受け台の表面から突出する突出量が0.4mm以下である。

【0018】

また、請求項11に記載の発明は、請求項1～請求項9のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、前記用紙受け台の表面に沿わせた用紙と該用紙に画像を形成するヘッドとの距離が1mm以下であるとともに、前記転動体が前記用紙受け台の表面から突出する突出量が2mm以下である。

【0019】

また、請求項12に記載の発明は、請求項1～請求項11のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、前記転動体により用紙に加わる前記搬送方向に対する負荷が、0.098N以下である。

【0020】

また、請求項13に記載の発明は、請求項1～請求項12のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、複数の前記転動体は、前記搬送方向に沿って等ピッチで並設されており、少なくとも一部が互いに別々に回転可能である。

【0021】

また、請求項14に記載の発明は、請求項1～請求項13のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、少なくとも1つの前記転動体について、前記転動体の軸受けに対する画像形成剤の付着或いは接近を防止する防止手段を備えている。

【0022】

また、請求項15に記載の発明は、請求項14に記載の発明の手段を備え、その作用を奏し、前記防止手段は、前記転動体の回転半径方向に突出する突出部により構成されている。

【0023】

また、請求項16に記載の発明は、請求項14に記載の発明の手段を備え、その作用を奏し、前記防止手段は、前記転動体の回転半径方向に突出する第1の突出部と、該第1の突出部と平行に突出する第2の突出部とにより構成されている。

【0024】

また、請求項17に記載の発明は、請求項15又は請求項16に記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、前記転動体は、少なくとも、前記突出部を一体成形されている。

【0025】

また、請求項18に記載の発明は、請求項14に記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、前記防止手段は、少なくとも、前記用紙受け台に一体成形された突出部により構成されている。

【0026】

また、請求項19に記載の発明は、請求項1～請求項18のいずれかに記載の発明の手段を備え、そのいずれかの作用を奏し、インクを噴射することによる画像形成手段を備えている。

【0027】

また、請求項20に記載の発明は、吸引により表面に沿わせた用紙に反対側から画像が形成されつつ、前記用紙が所定の搬送方向へ搬送される用紙受け台において、前記搬送方向に直交する所定の回転軸周りに回転可能で、表面から突出し

て設けた転動体を、複数備えている。

【0028】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しながら説明する。図1は、本発明の一実施形態に係る画像形成装置の概略構成を示す側面縦断面図である。同図では、下からの給紙を行うタイプのものを示している。同図において、筐体1内の底部には、給紙カセット2が配置されており、その中には用紙3がセットされている。用紙3の上面には、給紙ローラ4が軽く押さえつけられている。

【0029】

一方、給紙カセット2の上方には、用紙通路5を介して従来のプラテンに相当する用紙受け台6が配置されており、用紙受け台6の前後には、それぞれLF（ラインフィード）ローラ対7及び排紙ローラ対8が配設されている。また、排紙ローラ対8の後方には、印刷された用紙3が排紙される排紙部9が、フレーム9aに支持されつつ突設している。さらに、用紙受け台6の直上には、用紙3に印刷を行うヘッド10が設けられており、これはキャリッジガイド軸11にガイドされつつ、紙面の手前側から向こう側の間を往復摺動可能となっている。なお、用紙通路5の途中には、中間ローラ対12が配置されている。

【0030】

また、用紙受け台6には、用紙3の搬送方向T（矢印で示す）に直交する回転軸周りに回転可能で、用紙受け台6の表面から突出して設けた転動体13を複数備えている。また、用紙受け台6の表面には吸引口（不図示）が開けられており、用紙受け台6の表面下部に広がる吸引ボックス6aと連通している。さらに、吸引ボックス6aの下側には、この吸引ボックス6a内の大气を吸引して排出する、吸引ポンプ14が設けられている。この吸引ポンプ14の吸引力は、概ね100Paまでとなっている。

【0031】

さて、印刷時には給紙ローラ4の回転により、その摩擦力で用紙3が上から1枚ずつ給紙され、用紙通路5に沿って上方へ搬送される。そして、回転する中間ローラ対12を経て、同じく回転するLFローラ対7により、用紙受け台6上に

用紙3が搬送される。最後に、回転する排紙ローラ対8により排紙部9へと導かれる。この、用紙受け台6上を用紙3が搬送されているときに、ヘッド10がキヤリッジガイド軸11に沿って往復しつつ、用紙3（用紙受け台6と対向する面とは反対の面）に印刷する。またこのとき、用紙受け台6の表面に開けられた図示しない吸引口により、用紙3が大気とともに吸引されつつ、転動体13に接触しながらこの上を移動する。これに伴い転動体13が図1の反時計回りに回転し、搬送負荷が低減され用紙3がスムーズに搬送される。

【0032】

図2は、本発明の一実施形態に係る画像形成装置の用紙受け台6の付近の構成を示す側面縦断面図である。同図において、用紙受け台6には、用紙3の搬送方向Tに直交する回転軸13a周りに回転可能で、用紙受け台6の表面から突出して設けた転動体13を複数備えている。また、用紙受け台6の表面には吸引口15が開けられており、用紙受け台6の表面下部に広がる吸引ボックス6aと連通している。

【0033】

転動体13の回転軸13aは、本実施形態では用紙受け台6の裏面側即ち吸引ボックス6a内部に設けられている。同じく吸引ボックス6a内には、平板状の軸受け板16が、ビス17にて用紙受け台6の裏側に取り付けられている。この軸受け板16により図示しない軸受け部が形成され、これに転動体13の回転軸13aが回転自在に軸支されている。詳しくは後述する。

【0034】

同図において、用紙受け台6の表面からの転動体13の突出量、言い替えれば用紙3の下面（転動体13の最上部）と用紙受け台6の表面（上面）との所定の隙間（b寸法で示す）が定められている。このような隙間を設けることにより、従来のように用紙の端部で吸引口の一部が塞がれ、その開口幅が小さくなったりに、吸引によりこの部分を通過する大気の作用で、用紙の端部が振動し、風切り音が発生するといった問題がなくなる。

【0035】

一方、ヘッド10と用紙3との間に発生する空気流の流速が、ヘッド10のノ

ズル噴射速度の10%以下であれば、画品質に影響しない。そのため、上記b寸法は2mm以下としている。これにより、従来のように吸引口より吸引される大気の流れの影響により、インク液滴を用紙に噴射する際に着弾乱れが生じ、画品質が悪くなるといった問題がなくなる。

【0036】

逆に、2mmより大きい隙間を設けると、用紙3上に印刷に不適切な大気の流れが発生して、安定した大気の流れを確保することができなくなる。この結果、インク液滴の着弾性能への影響が大きくなる。但し、上記b寸法2mm以下に対して、a寸法で示す用紙3の上面とヘッド10の下面との所定の隙間は、1mm以下に定められていることが前提となっている。さらに、転動体13の半径を4.3mm以上20mm以下とし、b寸法を0.4mm以下0.1mm以上とすることにより、用紙の搬送状態がより安定し、良好な画品質が得られる。なお、転動体13の半径の上限は、転動体13間が40mmを超えると、用紙のたわみが大きくなり、用紙受け台6の表面に用紙3が接触するためである。また、b寸法の下限は、実装上、公差等を考慮すると、0.1mmが妥当だからである。

【0037】

図3は、本実施形態に係る用紙受け台及びその近傍を示す斜視図である。また図4は、本実施形態に係る用紙受け台及びその近傍を示す平面図である。各図において、ヘッド10をガイドするキャリッジガイド軸11は、一部のみ描いていいるが、実際は搬送方向Tに直交する方向に、略全長に渡って設けてある。ちなみに、吸引ボックス6aは、その上下をビス18により密閉固定し、中空状である。

【0038】

これらの図に示すように、用紙受け台6の表面には、搬送方向Tに沿ってスリット状の貫通孔6bが開けられている。そして、この部分より用紙受け台6の表面から突出して設けた複数の転動体13が、搬送方向Tに沿って例えば等ピッチで並設されている。さらに、このように並設された複数の転動体13を一列として、これが搬送方向Tに直交する方向に配設され、複数の列を成している。なお、転動体13、吸引口15についての引き出し線は、図が煩雑になる恐れがある

ので、一部にのみ記載している。

【0039】

また、用紙受け台6の表面で例えば前記転動体13の列同士の間には、大気を吸引する吸引口15が設けられている。そして、吸引口15は主として転動体13の近傍に配置されている。さらに、吸引口15は転動体13に対して搬送方向Tに直交する方向の外側近傍に多く配設されている。

【0040】

また、図4に示すように、転動体13は搬送方向Tに平行な中心線Xに対して、線対称に配設されている。さらに、転動体13の列同士のピッチは、外側に位置するほど小さくなっている。つまり、同図の中央付近におけるピッチであるA寸法より、外側のB寸法の方が小さくなっている。言い替えれば、中心線Xに対して線対称に配設されて対を成す転動体13同士の幅（同図のC寸法で例示）は、その転動体13が搬送方向Tに直交する方向の外側に位置するほど、広がる割合が小さくなっている。

【0041】

ちなみに、同図では中心線Xを中心とした各用紙サイズの幅と、用紙受け台6との関係を示してある。即ち、レター、A4、A5、ハガキ、及びL判等の定形各サイズの幅を図示している。これより分かるように、概ね定形各サイズの用紙の搬送方向Tに直交する方向の外縁部近傍に、吸引口15が位置するようになっている。これにより、用紙端部の浮き上がりを防止し、用紙3の保持を安定させている。なお、ここではいわゆるセンターレジの用紙配置となっており、用紙幅が異なっても概ね中央の基準に合わせて用紙を配置する構成である。以上のようにして、用紙3と転動体13との安定した接触を確保し、安定した搬送を行えるようにしている。

【0042】

なお、用紙の平面度を、

$$(平均分布負圧) \times (転動体のピッチ) 4 / (用紙のクラーク剛度)$$

と定義して、さまざまな用紙に対して最適な印刷が行える範囲に平面度がなるよう、吸引の負圧、転動体13のピッチは決められている。また、転動体13に

よる転がり摩擦を極力小さくし、転動体13により用紙3に加わる搬送方向Tに対する負荷が、10gf以下即ち0.098N以下であるようにしている。これにより、スムーズで安定した用紙の搬送を行えるようにしている。

【0043】

ところで、本実施形態では、上述した全ての転動体13が、互いに別々に回転可能である構成としている。この場合、別々に回転するとは、用紙3に接触している転動体13は、用紙3の搬送に伴って回転するが、その他の転動体13は用紙3から離間しているので回転しない状態を言う。このように、転動体13が別々に回転する構成とすると、用紙3の幅や長さに応じて接触する転動体13だけが回転するので、転動体13による搬送負荷も低減できる。

【0044】

また以下に、転動体13の摺動部にインクが流れ込まないようにした構成を示す。図5は、本実施形態における転動体13及びその近傍を示す断面図である。また図6は、本実施形態における転動体13及びその近傍を下側より見た斜視図である。これらの図に示すように、用紙受け台6の表面に開けられた貫通孔6bより、用紙受け台6の表面から突出して転動体13が設けられている。転動体13の回転軸13a方向両側には、円柱状部13bが一体に突設している。さらに、円柱状部13bの両端部には、回転軸13a周りに一体成形された鍔状部13cが設けられている。なお、ここでは転動体13と回転軸13aが一体に回転する構成となっている。

【0045】

一方、貫通孔6b近傍で回転軸方向両側の用紙受け台6裏面より、一体成形されたリブ6cが突設しており、これには軸方向から見て半月状の切り欠き6caが設けられていて、リブ6cにより上記円柱状部13bを取り囲むようにしている。また、回転軸13aの両端部近傍に向かって用紙受け台6裏面よりリブ6dが延びており、これには軸方向から見て半月状の切り欠き6daが設けられていて、リブ6dにより回転軸13aを取り囲むようにしている。そして、リブ6dと軸受け板16とで回転軸13aを挟み込むようにして、軸受け部を形成している。

【0046】

以上のような構成において、貫通孔6bよりインクが侵入したとしても、リブ6c及び鍔状部13cがインクの防止壁の働きを成し、インクは円柱状部13bの表面に溜まるか、ここから滴下するのみとなって、転動体13の摺動部である回転軸13aの両端部近傍の軸受け部まで届くことはない。これにより、摺動部にインクが流れ込んで固着し、さらには転動体13が回転しなくなって、転動体13が回転する場合に比べて、搬送負荷が増大するといった不具合が防止される。

【0047】

以下に、転動体13の摺動部にインクが流れ込まないようにした構成の変形例を示す。図7は、変形例における転動体及びその近傍を示す断面図である。また図8は、変形例における転動体及びその近傍を下側より見た斜視図である。各図では上記図5、図6におけるものと同様の働きをする部分については、同じ符号を付している。

【0048】

図7、図8において、用紙受け台6の表面に開けられた貫通孔6bより、用紙受け台6の表面から突出して転動体13が設けられている。転動体13の回転軸13d方向両側には、円筒状部13eが突設している。さらに、円筒状部13eの両端部には、回転軸13d周りに鍔状部13cが設けられている。なお、ここでは回転軸13d周りに転動体13が別体で回転する構成となっている。このとき、円筒状部13eは回転軸13d周りに回転する軸受け部となっている。なお、回転軸13dは、自身は回転せずに固定された状態でも良い。

【0049】

一方、貫通孔6b近傍で回転軸方向両側の用紙受け台6裏面より、リブ6cが突設しており、これには軸方向から見て半月状の切り欠き6caが設けられていて、リブ6cにより上記円筒状部13eを取り囲むようにしている。また、回転軸13dの両端部近傍に向かって用紙受け台6裏面よりリブ6dが延びており、これには孔6dbが設けられていて、これに回転軸13dが嵌通している。

【0050】

以上のような構成において、貫通孔6bよりインクが侵入したとしても、リブ6c及び鍔状部13cがインクの防止壁の働きを成し、インクは円筒状部13eの表面に溜まるか、ここから滴下するのみとなって、転動体13の摺動部である円筒状部13eの内周壁13eaで構成される軸受け部まで届くことはない。これにより、摺動部にインクが流れ込んで固着し、さらには転動体が回転しなくなつて、転動体13が回転する場合に比べて、搬送負荷が増大するといった不具合が防止される。

【0051】

以下に、転動体13の摺動部にインクが流れ込まないようにした構成の種々の変形例を示す。図9は、各変形例における転動体13及びその近傍を示す断面図である。同図(a)は、転動体13のみにインク防止壁の働きを持たせた例である。ここでは転動体13の回転軸13a方向両側に、鍔状部13cが2つずつ設けられている。これによりインク防止壁の働きをさせて、回転軸13aの両端部近傍の軸受け部Jまでインクが届くことのないようにしている。

【0052】

なお、軸受け部Jは、用紙受け台6より延びるリブ6dと、軸受け板16より延びるリブ16aとで、回転軸13aを挟み込むようにして形成したものである。また、転動体13の下側において、軸受け板16に凹部16bを設け、ここにインクが溜まるようにして、滴下することのないようにしている。これらのこととは、以下の例においても同様である。

【0053】

同図(b)は、転動体13とは別の回転体19のみにインク防止壁の働きを持たせた例である。ここでは転動体13の回転軸13a方向両側に、転動体13とは別体で、円板状の回転体19を同軸上に設けた構成としている。これによりインク防止壁の働きをさせて、回転軸13aの両端部近傍の軸受け部Jまでインクが届くことのないようにしている。

【0054】

同図(c)は、用紙受け台6側のみにインク防止壁の働きを持たせた例である。ここでは転動体13の回転軸13a方向両側に、用紙受け台6より延びるリブ

6 eと、軸受け板16より延びるリブ16cとを、それぞれ2つずつ設け、回転軸13aを間に挟んで対峙させた構成としている。リブ6eとリブ16cとの間には、紙面に直交するスリットSが形成されている。このような構成によりインク防止壁の働きをさせて、回転軸13aの両端部近傍の軸受け部Jまでインクが届くことのないようにしている。

【0055】

同図(d)は、転動体13とは別の回転体19と用紙受け台6側との協働により、インク防止壁の働きを持たせた例である。ここではまず、転動体13の回転軸13a方向両側に、用紙受け台6より延びるリブ6fと、軸受け板16より延びるリブ16dとを設け、回転軸13aを間に挟んで対峙させた構成としている。リブ6fとリブ16dとの間には、孔Hが形成されている。さらに、転動体13の回転軸13a方向両側で前記各リブ6f, 16dの外側に、転動体13とは別体で円板状の回転体19を同軸上に設けた構成としている。これらリブ6f, 16d及び回転体19の協働によりインク防止壁の働きをさせて、回転軸13aの両端部近傍の軸受け部Jまでインクが届くことのないようにしている。

【0056】

図10は、用紙受け台の変形例及びその近傍を示す平面図である。同図では、図4に示した実施形態と比較して、転動体13が搬送方向Tに平行な中心線Xに対して、線対称に配設されていることは同様であるが、本変形例では転動体13の列同士のピッチは、同図のA寸法で示すように、何れも同じになっている。取り扱う用紙3によっては、このような構成とすることも有効である。なお、この図10においても、転動体13, 吸引口15についての引き出し線は、一部にのみ記載している。

【0057】

なお、実施形態での転動体13の回転軸は、用紙受け台6の表面に平行なものと想定しているが、これに限定されるものではなく、転動体13が用紙の搬送方向に沿って回転するのであれば、用紙受け台6の表面に対して傾斜したものとすることも可能である。また、転動体13の形状については、実施形態のような円柱や円板形状に限らず、回転体であれば球や円錐台等でも良い。

【0058】

また、転動体13は用紙受け台6の裏側（下方）から取り付けられた構成としているが、用紙受け台6の表側（上方）から取り付けられた構成としても良い。また、転動体13は用紙3の搬送に伴って回転する構成としているが、モータ等で積極的に回転駆動する構成としても良い。

【0059】

さらに、実施形態では、全ての転動体13が、互いに別々に回転可能である構成としたが、少なくとも一部の転動体13同士が、別々に回転可能である構成としても良い。

【0060】

その他、実施形態では液体のインクを用紙に噴射する画像形成装置に本発明を用いた構成としているが、粉末のトナーを用紙に定着させる画像形成装置に本発明を用いた構成としても良い。

【0061】

なお、特許請求の範囲で言う画像形成剤は、実施形態におけるインクに対応しており、突出部は鍔状部に対応している。

【0062】**【発明の効果】**

以上説明したように、本発明によれば、転動体が用紙の搬送に伴って回転するので、簡単な構成で、用紙のスムーズで安定した搬送が可能であり、しかも高品位の画像を得ることができる。

【0063】

特に、請求項1～請求項3の構成によれば、吸引により用紙の浮き上がりを防止して、しかも転動体によりスムーズな搬送を行うことができる。

【0064】

また、請求項4～請求項9の構成によれば、用紙サイズに応じて、用紙と転動体との安定した接触が得られ、安定した搬送を行うことができる。

【0065】

また、請求項10～請求項12の構成によれば、用紙に加わる搬送方向に対す

る負荷を減らすことができる。

【0066】

また特に、請求項11の構成によれば、用紙上での印刷に不適な大気の流れの発生を抑え、スムーズな搬送を行うことができる。

【0067】

また、請求項13の構成によれば、用紙が等ピッチに配置された転動体によって、搬送方向に直交する方向に一定に支持され、用紙の安定した搬送を行うことができる。

【0068】

また、請求項14～請求項16の構成によれば、軸受けに画像形成剤が固着して転動体が回転しなくなることを防止することができる。

【0069】

また、請求項17及び請求項18の構成によれば、転動体及び用紙受け台の構成が簡単となり、製作、組み付けが容易でコストダウンを図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る画像形成装置の概略構成を示す側面縦断面図。

【図2】本発明の一実施形態に係る画像形成装置の用紙受け台付近の構成を示す側面縦断面図。

【図3】本実施形態に係る用紙受け台及びその近傍を示す斜視図。

【図4】本実施形態に係る用紙受け台及びその近傍を示す平面図。

【図5】本実施形態における転動体及びその近傍を示す断面図。

【図6】本実施形態における転動体及びその近傍を下側より見た斜視図。

【図7】変形例における転動体及びその近傍を示す断面図。

【図8】変形例における転動体及びその近傍を下側より見た斜視図。

【図9】各変形例における転動体及びその近傍を示す断面図。

【図10】用紙受け台の変形例及びその近傍を示す平面図。

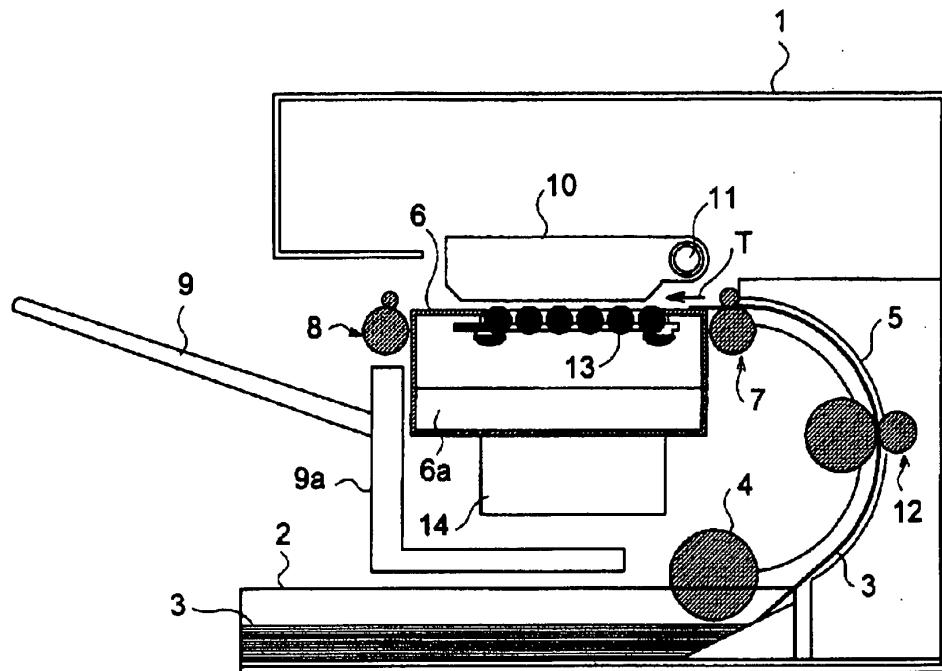
【符号の説明】

1 筐体

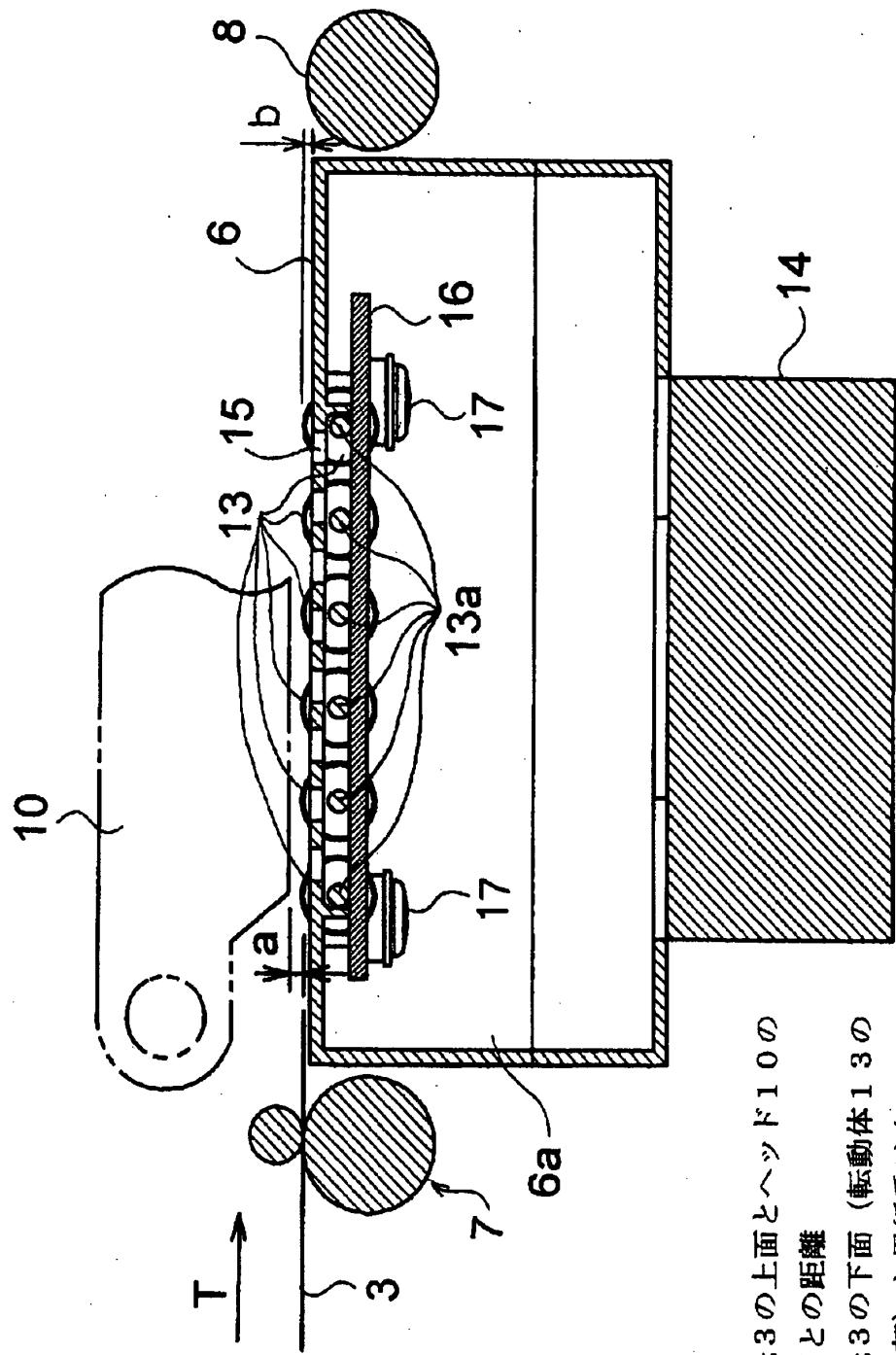
- 2 紙カセット
- 3 用紙
- 4 紙ローラ
- 5 用紙通路
- 6 用紙受け台
- 7 L F ローラ対
- 8 排紙ローラ対
- 9 排紙部
- 10 ヘッド
- 11 キャリッジガイド軸
- 12 中間ローラ対
- 13 転動体
- 14 吸引ポンプ
- 15 吸引口
- 16 軸受け板
- 17, 18 ビス
- 19 回転体

【書類名】 図面

【図1】



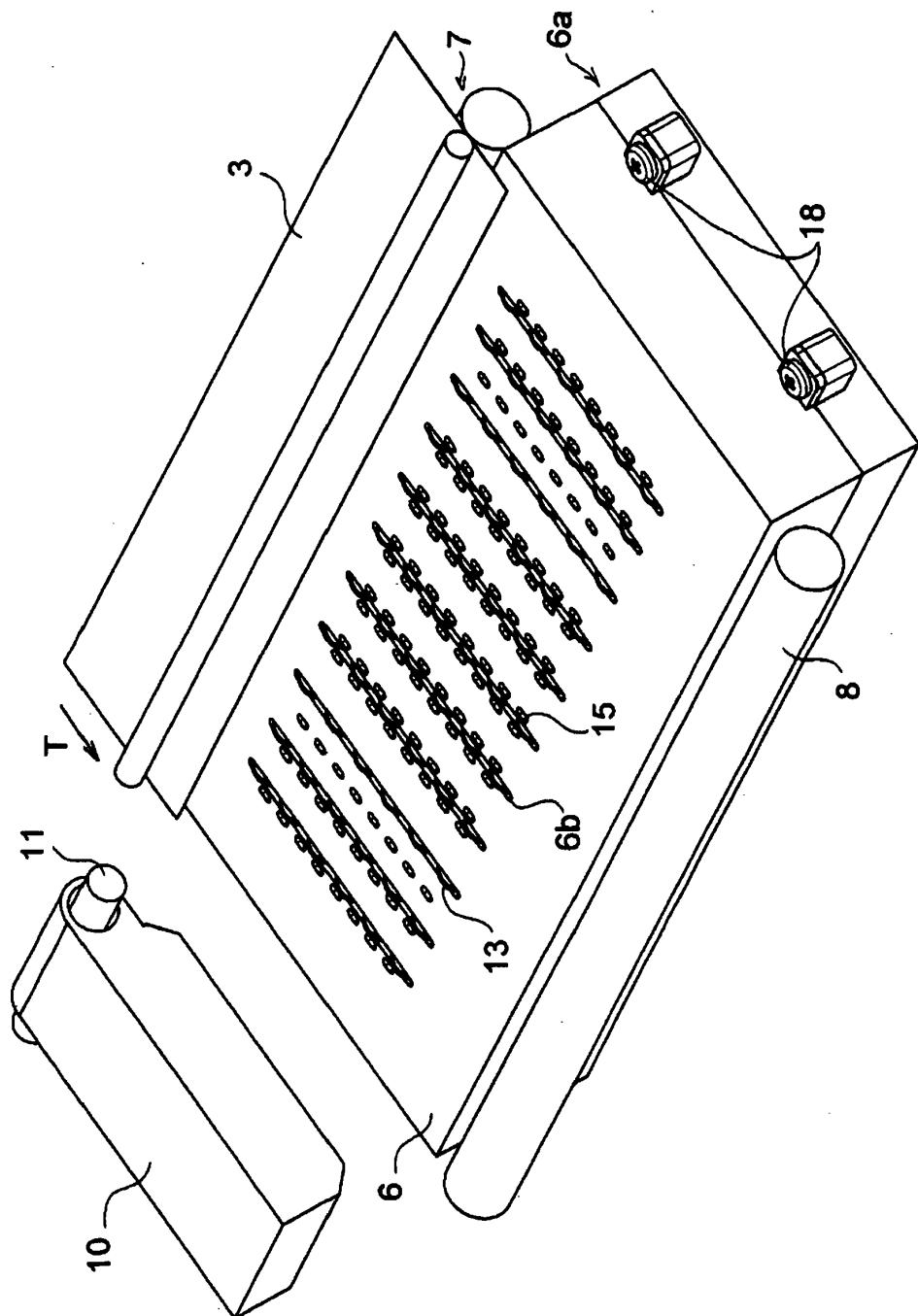
【図2】



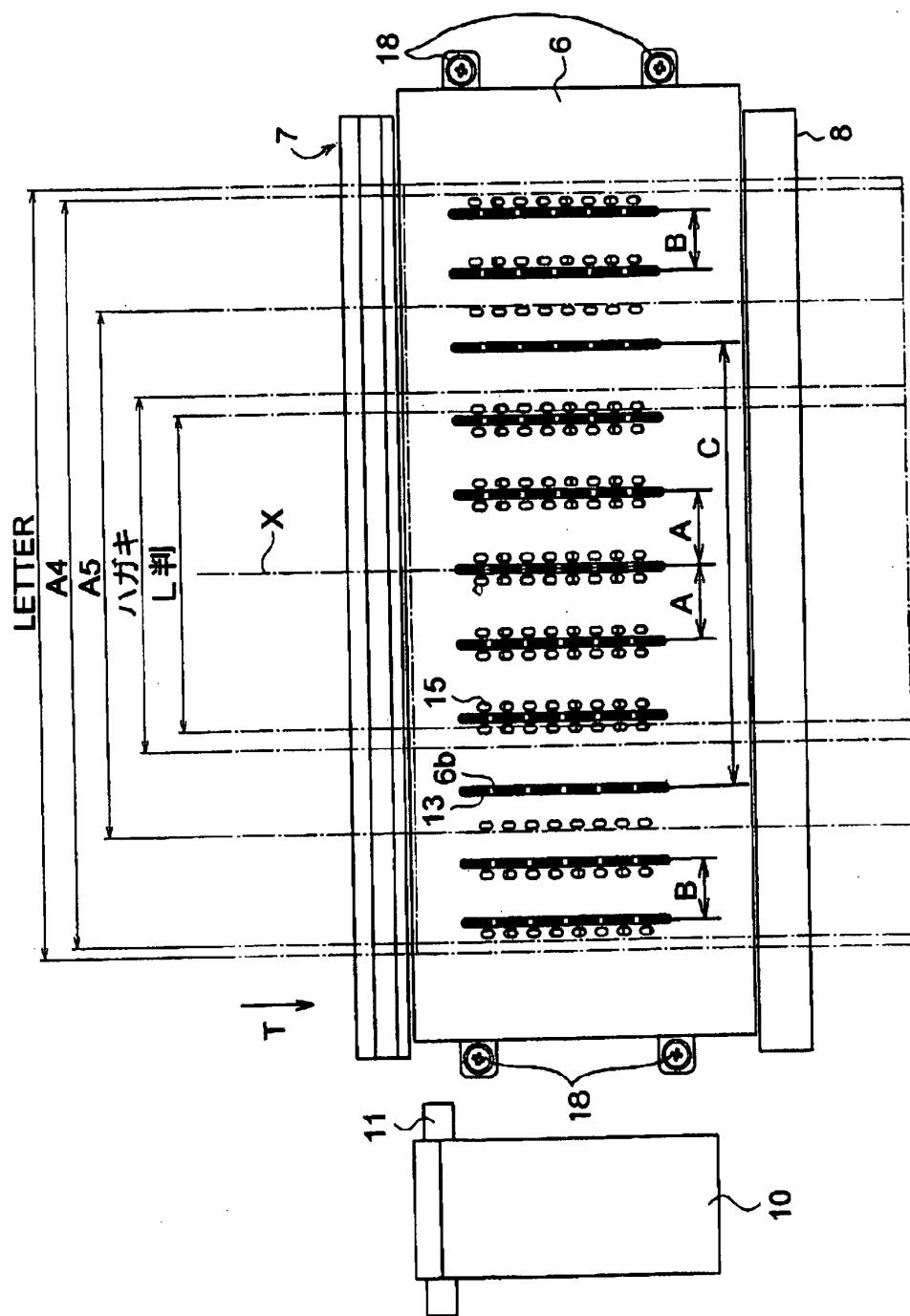
a寸法：用紙3の上面とヘッド10の
下面との距離

b寸法：用紙3の下面（駆動体13の
最上部）と用紙受け台6の
上面との距離

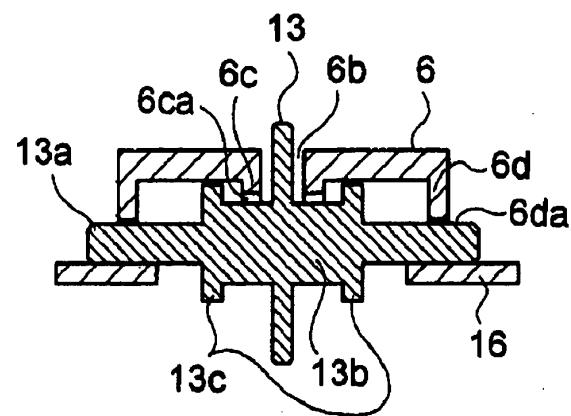
【図3】



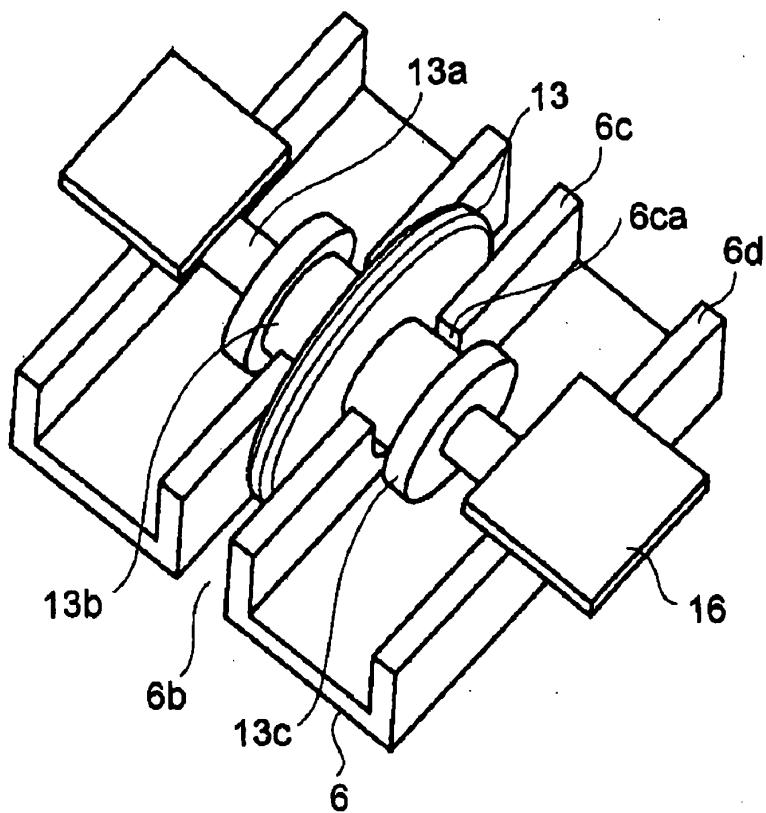
【図4】



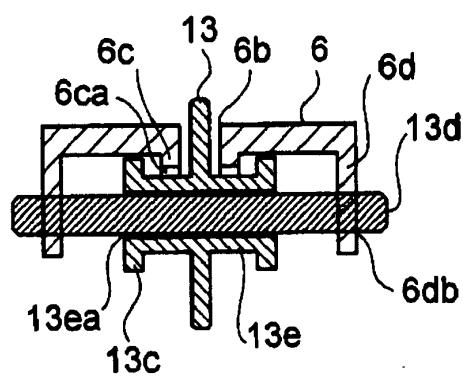
【図5】



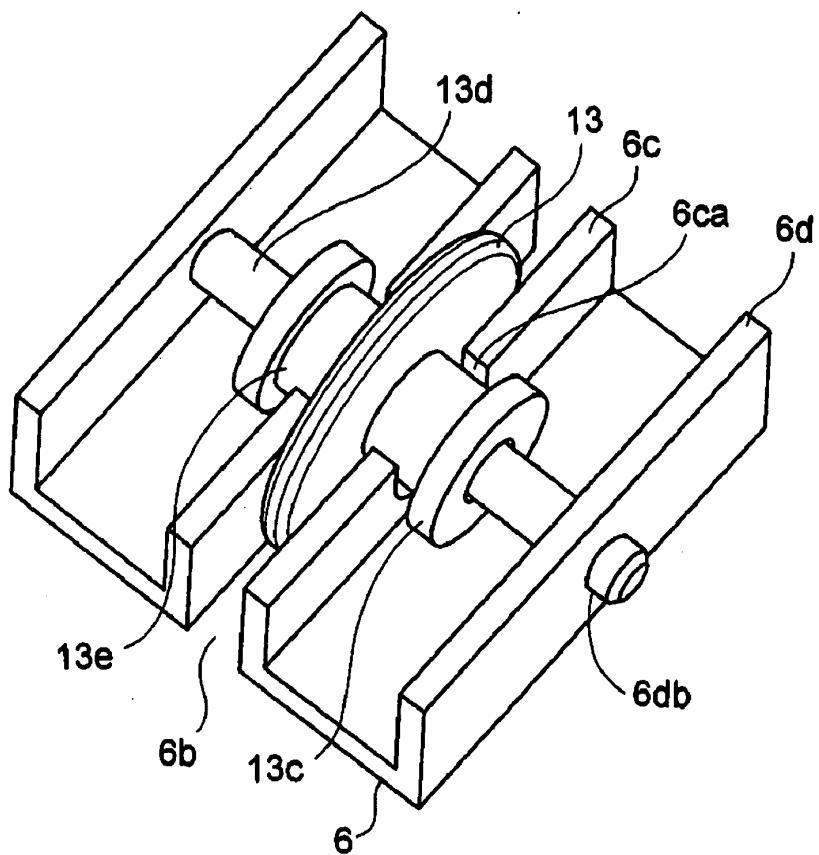
【図6】



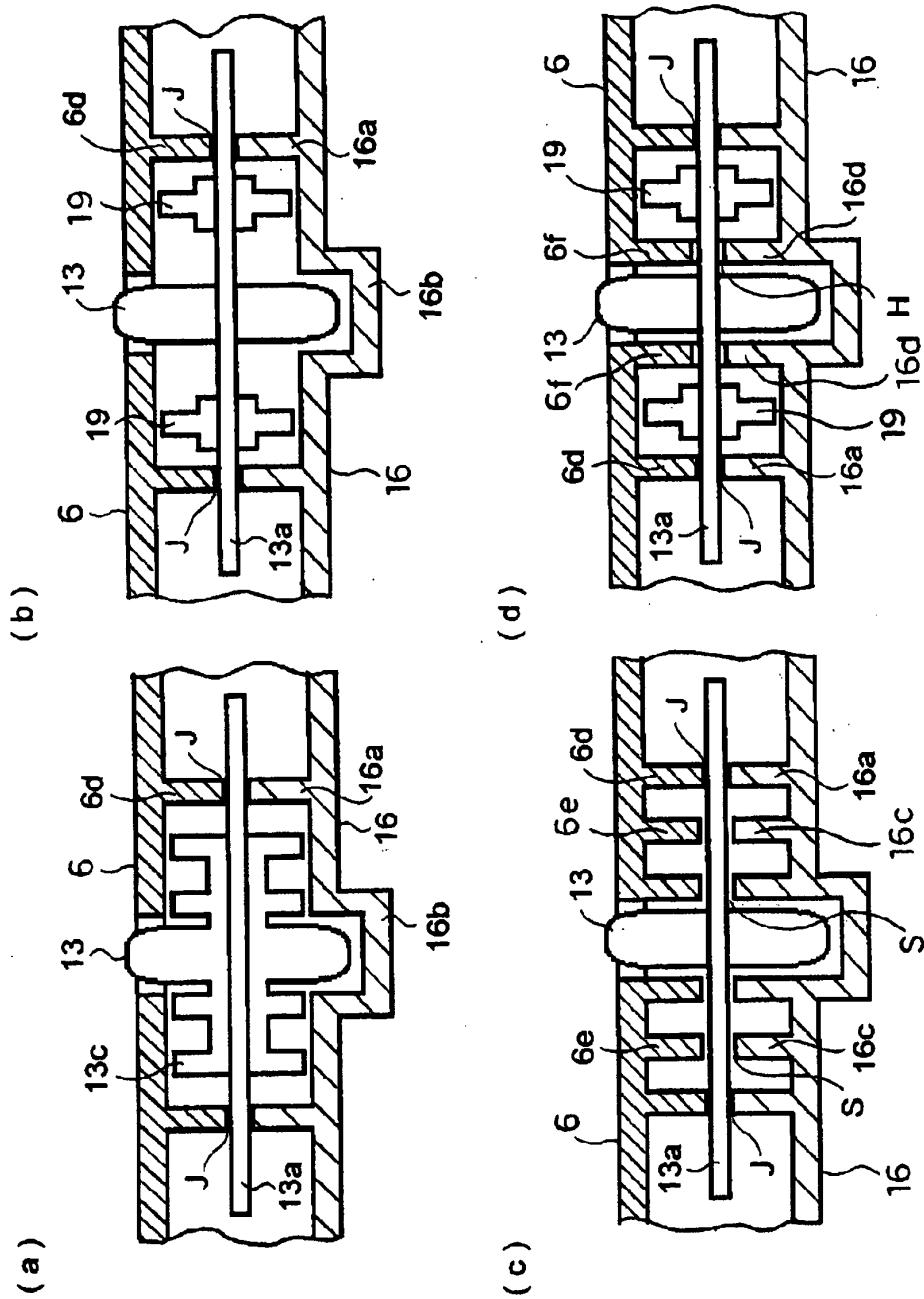
【図7】



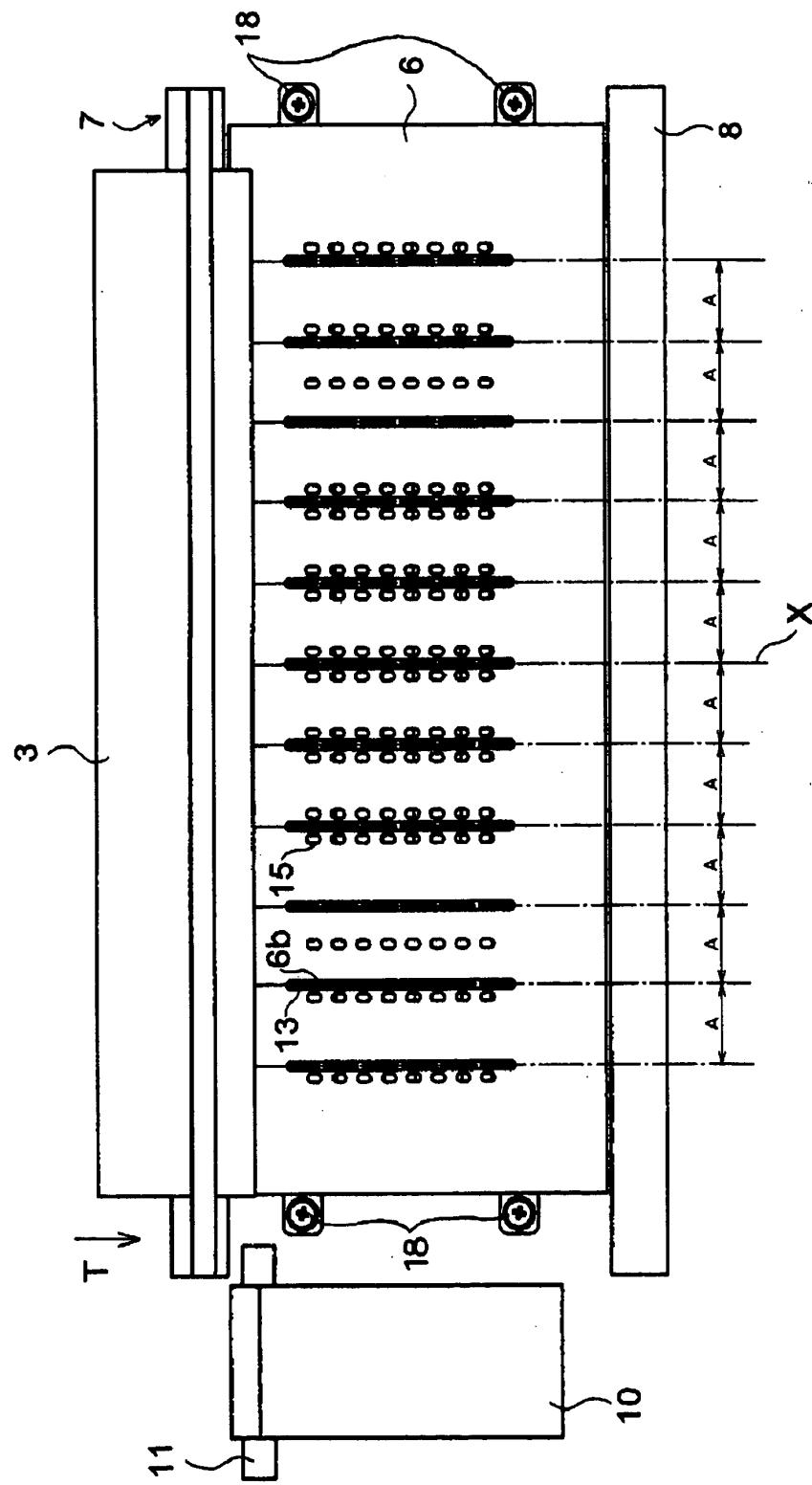
【図8】



【図9】



【図10】



特願2003-085197

ページ： 11/E

出証特2003-3101858

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 簡単な構成で、用紙のスムーズで安定した搬送が可能であり、しかも高品位の画像を得ることができる画像形成装置、及びその用紙受け台を提供する。

【解決手段】 用紙受け台6には、用紙3の搬送方向Tに直交する回転軸13a周りに回転可能で、用紙受け台6の表面から突出して設けた転動体13を複数備えている。また、用紙受け台6の表面には吸引口15が開けられており、用紙受け台6の表面下部に広がる吸引ボックス6aと連通している。さらに、吸引ボックス6aの下側には、この吸引ボックス6aの大気を吸引して排出する、吸引ポンプ14が設けられている。

【選択図】 図2

特願2003-085197

出願人履歴情報

識別番号 [000005267]
1. 変更年月日 1990年11月 5日
[変更理由] 住所変更
住 所 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号
氏 名 ブラザー工業株式会社